

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成 25 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	浜松の民芸運動の現代的評価に向けて(その1)				
配分を受けた 特別研究費	学長 特別研究費		640 千円		
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	デザイン学部	生産造形学科	教授	黒田宏治	他 1名
発表の方法	1 紀 要 名 称:浜松の民芸運動の現代的評価に向 けて(2)			号 数	第 15 号 (1頁～ 6頁) (2015年 3月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:			発表日	平成 年 月 日

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の3月末までに提出

(研究の目的等)

浜松地域における民芸運動関連資料・情報の掘り起こし、民芸運動史、近代デザイン史における役割や位置づけを探究する。平成25年度研究では、24年度予備的研究(研究紀要第13巻掲載)を踏まえ、文献資料調査、インタビュー調査等を行い、戦前・戦後から近年に至る浜松における民芸運動展開の概略経過と評価の論点整理を試みた。

(研究の実施方法等)

浜松の民芸運動関係を中心とした文献資料調査・収集、比較事例現地調査(倉敷地域等)、郷土史家、民芸協会関係者へのインタビュー調査を行った。

(1) 文献資料調査

- ・中村精『民藝と濱松』(ロータリー版)、遺稿集『かいほつ』など
- ・浜松市立中央図書館資料「教育と民芸につくした中村精」「高林家資料展」「遠州民芸運動資料展」など
- ・鈴木直之『幻の日本民藝美術館』、雑誌「遠江」所収論文など  
ほか

(2) 比較事例現地調査

倉敷民藝館、山崎山荘美術館、訪問視察調査

(3) 郷土史家インタビュー調査

鈴木直之(遠州地域郷土史家、『幻の日本民藝美術館』著書がある)

田中信之(元遠州民芸協会事務局長、鈴木繁男に師事し協会創設に携わる)

(得られた成果等)

大正15年、柳宗悦らは『日本民藝美術館設立趣意書』を発表した。当時浜松在住であった中村精は趣意書を見て感銘を受け、柳宗悦を昭和2年に浜松に招く。そこで高林兵衛らが共鳴し、彼らが浜松における民芸運動の牽引役になった。そして昭和6年に高林邸内に日本で初めての「日本民藝美術館」が開館した。……ただ昭和8年には2年余りで閉館となり、久しく忘れられた存在となった。なお、東京・駒場に「日本民藝館」が開館したのは昭和11年のことである。

1980年頃より、伊東政好、鈴木直之らの郷土史家により昭和初期の浜松における民芸運動史の掘り起こしが進められてきた。81年に遠州民芸同好会が結成され、鈴木繁男のまわりに遠州の工芸家の輪が広がり、92年に浜松で日本民芸夏期学校開催、93年には遠州民芸協会も誕生した。なお、2002年には静岡文化芸術大学を会場に浜松で2度目の夏期学校も開催されている。

民芸の人たちは大きな期待を高林兵衛に持っていたと思うんです。…当時の民芸運動のような活動では、パトロンがいないと継続できなかつたと言えると思います。(鈴木直之氏インタビュー)

民芸運動が始まったときはイノベーションだったんです。それがいつか固まっちゃった。発想は革新的だったんですけど、その後うまく根づかせられなかつたということです。(田中信之氏インタビュー)